



寄って 話して 自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

みなおして！

～多様な視点から子どもを見る～



イラスト：うじな かずひこ

小学校の生活にも少しずつ慣れ、まだまだ幼いと思っていた子どもの世界は、家族を超えて広がり、さまざまな経験をするようになります。だんだんと親の側から離れていくわが子の姿に寂しさを感じることもあるかもしれませんが、子どもの成長を喜び、自ら伸びようとしている芽をみつけてしっかり伸ばしてあげましょう。子どもにとって心安らく居場所になっているかどうか家庭をもう一度見つめ直し、子どもと一緒に親も成長していきたいものですね。

エピソードを読みましょう

アヤちゃんは小学3年生の女の子。マンガが大好きで、読み始めると夢中になって、時間が経つのを忘れることもしばしばです。

ある日のこと、夕食の支度ができたので、お母さんがアヤちゃんを呼びに来ました。

母 「アヤ、夕食の時間よ」

アヤ 「は〜い、今行く…」

ところが、アヤちゃんは、切りのよいところまでと思って読んでいるうちに熱中してしまい、お母さんに呼ばれたことも忘れてしまいました。

父 「アヤはどうしたんだ。またマンガか…。困ったもんだ。マンガを取り上げた方がいいんじゃないか？」

母 「そうかしら？あれほど熱中できるなんて、集中力がある証拠よ。すてきなことじゃない！？好きなことにあんなに夢中になれるのが、うらやましいくらい。」

父 「…」



考えましょう,出し合いましょう

① このお母さんの考え方について、どう思いますか。

② あなただったら、こんな時にはどうしますか。